

# 本気の地震対策

あなたは、地震から自分の命を守ることができですか？

「大地が動いた」……。平成七年一月十七日午前五時四十六分、兵庫県南部を襲った直下型地震。心のすきをつくような「悪魔の身ぶるい」は、ときに多くの命を奪い、多くの人を恐怖と苦痛の淵へと導く。

地震の原因の一つとされる活断層は、列島にくまなく分布しています。その数二千以上。いつ、どこで大地震が起きても不思議ではないのです。そう、まさに今日、この大館の地が襲われるのかも……。

## 1. 家屋の耐震診断

阪神・淡路大震災では、死者の九割近くが家屋の倒壊によるものといわれています。日本建築学会の調べによると、倒壊した家屋の多くは、在来工法の比較的古い木造のものであったそうです。そこで、在来工法による木造一戸建てを例に、耐震度チェックのポイントを整理してみましょう。

まずは地盤。阪神・淡路大震災でも大きな

被害は軟弱な地盤の地域に集中していました。埋め立てた土地ではないか、固い地層と軟らかい地層にまたがった土地ではないかをチェックします。

次に基礎。基礎に使われるコンクリートはねじれに弱く、その欠点を補うのが鉄筋です。図面などで、鉄筋の入った基礎かどうかを確認しておきたいものです。

建物の形も、地震に対する強さに大きく影響します。水平断面の形が込み入っていると、

地震のときにかかる力も複雑になり、危険です。また、二階部分が隅の方に寄っていたり柱だけで支えられていたりするタイプの建物も、万一のときには力が偏って働きますから危険です。

建物の外回りの壁（外壁材）の配置。木造の家屋はねじれに弱いので、各コーナーに壁があるかどうかポイントになります。また、大開口部や大空間が多く、壁が少ない造りは強度が確保されにくく、注意が必要です。

古い家屋では、傷みのチェックも欠かせません。土台が腐ったり、シロアリに食われたりしていないかを念入りに調べます。耐震度チェックの結果によっては、問題のある部分を補強しておくことが大切です。

